

「学部の専門性」  
「総合大学の多様性」  
「高い就職率」が進学動機に

一まず受験生にとって身近な1、2年生に、神戸大学海事科学部への進学を決めた理由をお聞きします。

**高松** 私は海や船が身近にある港町に育ち、自然と船に乗る仕事をしたいと思うようになりました。地元に近い東京の大学に進学することも考えましたが、逆になじみのない関西の港や海上輸送関連の企業のことを知るのも自分の視野を広げるためにいいのではと思い、神戸大学海事科学部を選びました。



**船木** 私も航海士志望です。航海士になるための勉強ができる大学は他にもありますが、神戸大学を選んだのは総合大学に通いたいという気持ちが強かったからです。学部の枠を超えて色々な人と交流できることに期待しました。

**木村** 私は高校の先生に紹介されて海事科学部の存在を知りました。決め手になったのは、就職率が理系学部で全国トップクラスだという点、また、2年生になってから学科の選択ができるという点です。

**船木** 高校では航海士を目指すという女子はまずいなかったのですが、ここは同じ気持ちの仲間がいるから嬉しいです。でも、船に興味ある人ばかりかと思っていたら、そうとは限らないんですね。

**木村** 3つの学科があって、船に乗りたい人、港湾関係で物流を支えたい人、エンジニアになり

たい人と、色々な夢や興味を持った人が集まっているんですね。自分が知らない知識に触れられる環境は刺激があります。

一入学後に1年間かけてじっくり学科を選択できるのは、海事科学部の大きなメリットですね。2年生以降は所属学科が決まり専門的な学びがスタートします。それぞれどんな視点で学科を選んだのか、後輩に教えてあげてください。

**浅井** 僕はものづくり志向で海事科学部を選んだのですが、様々な分野を学ぶうちに機能性材料に興味を持ち、乗船実習がなく研究に専念できる海洋安全システム科学科を選びました。



僕にとっては野球部の活動も大学生活の柱でした。勉強と部活を両立できるという点でも、海洋安全システム科学科は理想的な学科でした。

**長谷川** 私がロジスティクスコースを選んだのは、海事科学通論の講義で、海上コンテナ輸送や交通経済に関連する内容を聴いてロジスティクスに興味を持ったことがきっかけです。交通や物流、ICTに数理科学、そして環境、経済、経営と広く学ぶことができるのがこのコースの特色です。理工学系をベースにしながら文系の学びも深められる点が、私にぴったりでした。

**奥中** もともと工学系のことを学びたいという希望を持っていたので、マリンエンジニアリング学科に進み、メカトロニクスコースを選びました。船用エンジン、特に流体の研究に惹かれ、現在は宋先生のエネルギー流体科学研究室に所属しています。

**高松** 私は最初から航海士という目標があるので、迷わず航海マネジメントコースを選び

ました。  
一高松さんは、2年生になってここが一番変わったという点は？

**高松** 1年生の間は六甲台キャンパスで他学部の学生と一緒に全学共通科目を学ぶことのほうが多いので、海事科学部生であるという意識はあまりなかったです。でも、2年生になって海や船に関わる専門授業が増え、同時に学びの楽しさや充実感も増えました。

また、山から海へとキャンパスの環境が一変し、女子の割合がぐっと減ることもあって、目に映る風景も変わりました(笑)。

**長谷川** 海事科学部では女子は少数派になってしまいますけど、困ることはないですね。むしろ少人数だからこそヨコのつながりもタテのつながりも強いと思います。キャンパスを歩く女子全員が知り合いの状況です(笑)。

深まる  
「興味」と「学び」

一グローバル輸送科学科、マリンエンジニア学科では2年次から船舶実習が行われます。

**奥中** 僕は2年生のとき、練習船「日本丸」に乗船し、1カ月かけて国内の色々な港を回りました。十勝港で僕たち実習生が地元の人を迎え、船の中を案内したことが思い出に残っています。



**高松** 船上での業務を実践できることはもちろん、参加者同士で連帯感が強まり、貴重な経験になりました。練習船は間近で見ると迫力があり、航海士の仕事のスケールの大きさも感じま

Key words

学科配属及びコース配属

各学科及びグローバル輸送科学科のコース配属時期は、2年次前期とし、本人の希望と1年次のGPA、修得単位及びTOEIC(IP)の成績を勘案して実施します。なお、マリンエンジニアリング学科のコース配属は3年次前期です。

AO入試、推薦入試及び外国人特別選抜により入学した者は、受験した学科(コース)に配属されます。

クラブ・サークル

神戸大学には、大学の公認団体、全学的な同好会、学部単位で組織されている課外活動団体等、文化系から体育系まで数多くのクラブ・サークルがあります。

深江キャンパスに活動拠点を置く公認団体としては、ヨット部や端艇(カッター)部(男子・女子)、カヌー部等があり、多くの学生が、各種クラブ・サークルに入学しています。

船舶実習

海事科学部には「深江丸」という練習船があります。次の学科に配属された学生は、2年次以降に深江丸等による船舶実習を履修します。

- グローバル輸送科学科
- マリンエンジニアリング学科

船舶実習の配当年次

下記は卒業要件です。なお、海技免許(航海士、機関士)を取得するためには「船舶実習(1~3)」を修得の上、学部卒業後の乗船実習科において6か月の船舶実習が必要です。

学科コース	グローバル輸送科学科 航海マネジメントコース	ロジスティクスコース	海洋安全システム科学科	マリンエンジニアリング学科 機関マネジメントコース	メカトロニクスコース
1年次	なし				
2年次	船舶実習1(選択)	なし	なし	船舶実習1(必修)	なし
3年次	船舶実習2(必修)	なし	なし	船舶実習2(選択)	なし
4年次	船舶実習3(選択)	なし	なし	船舶実習3(選択)	なし

※必修=必修科目、選択=選択科目  
※海技教育(船舶職員養成教育)は、グローバル輸送科学科航海マネジメントコースおよびマリンエンジニアリング学科機関マネジメントコースで行います。

航海士

船舶職員の一つで船の甲板で操縦や指揮をとる仕事につきます。航海士になるには国家資格(海技免許)が必要です。海事科学部は、この資格が取得可能な日本に2つしかない大学(学部)の1つです。

六甲台キャンパス

入学から所属学科を選ぶまでの1年間、週4日六甲台キャンパスで他学部の学生とともに学修。幅広い教養を身に付けるほか、サークル活動などを通して、友人の輪も広がります。

